

14. 潰瘍性大腸炎の経過中に間質性肺炎、皮疹、肝障害をきたした1例

倉重 二郎, 杉浦 裕, 吉川信夫
島田 薫, 松村寛三郎

(賛育会病院)

西村 元伸 (千大)
松村竜太郎 (東邦大佐倉・内科)
田辺恵美子 (同・皮膚科)

16歳, 女性。潰瘍性大腸炎をサラゾピリン®にて治療中, 内服開始後, 約1か月経過して白血球の著明増加, 伝染性単核球症様の皮疹の発生をみた症例。サラゾピリン内服によっておきた肝障害, 間質性肺炎を伴う Stevens-Johnson 症候群と診断された。肝障害, 間質性肺炎等の多彩な症状を呈した症例はまれと考えられ報告する。

15. 敗血症性ショックにて発症し Malignant Histiocytosis が疑われた1例

池上智康, 斉藤丈夫, 山本恭平

(国保国吉病院)

われわれは敗血症にて発症し重篤な経過をたどった症例を経験したので報告する。患者は26歳, 女性。感冒様症状にて発症, ショック状態で緊急入院時, 頻呼吸頻脈で四肢にはチアノーゼを認めた。検査上無顆粒球症, metabolic acidosis を認め, 咽頭および血液培養から緑膿菌が検出された。治療に反応せず無尿のまま同日死亡した。骨髄は低形成, 一部に貪食像を呈する幼若な histiocyte の増加があり, 基礎疾患として malignant histiocytosis が疑われた。

16. 初発時に多発性の節外性病変を認めた悪性リンパ腫の1例

村田 秀行, 八木さやか, 野口武英
伊藤 文憲, 本村八重子, 大野孝則

(船橋中央)

大久保春男 (同・病理)
深沢 元晴, 松浦 康弘 (千大)

症例は55歳, 男性, C型肝炎で経過中, H4年1月より全身倦怠感, 右季肋部痛, 背部痛出現, 8月入院。腹部US: 肝, 脾内に低エコー腫瘍多発, 腹部リンパ節腫脹, Rapid CT: 肝, 脾内に enhance されない腫瘍多発, Ga シンチ: 肝, 脾に異常集積像多発, 血管造影: 脾に類円形の hypovascular area 多発, 非腫瘍部肝生検: 肝硬変, リンパ節生検: び慢性大細胞型B細胞性悪

性リンパ腫。CHOP 療法施行, 現在治療継続中。硬変肝に結節性病変を形成する悪性リンパ腫は稀なため報告した。

17. 当院における悪性リンパ腫症例の検討

塚本 真, 堀江 美正, 滑川尚史
松尾 哲, 岩岡 秀明, 吉田 恒
安 徳純, 尾世川正明, 横田 仁

(成田日赤)

当院にて過去5年間に診断した悪性リンパ腫63例(男女比1.52)の検討を行った。D. large が最多で, Tリンパ腫は27.5%であった。男性にT細胞性や予後不良の型が多かった。40%に表在リンパ節を触知せず, 節外性初発は60%であった。虫垂炎の既往と水腎症の合併が特徴的であった。15%に他の悪性疾患罹患があった。67%にγグロブリンの異常を認めた。なお, 診断困難であった13例を検討した結果, 大半に上述の異常所見が認められた。

18. 生活時間調査に基づく糖尿病患者の1日総消費エネルギー量の検討

栗林伸一, 松浦誠一, 広谷忠彦

(新八柱台病院)

糖尿病教育入院患者136名(男76名, 女60名)に退院後の生活時間調査を行った。その結果1日の総消費カロリー・基礎代謝・活動時代謝などが判明した。総消費カロリーは平均男2,262kcal, 女1,838kcal で, 通常計算される摂取指示カロリーより多く, 活動状況による差が大であった。種々の解析より, 早急な血糖・体重コントロールを目的とする初期を除き長期的な摂取カロリーは患者個々の生活実態調査に基づき決定すべきことが示唆された。

19. 血中インスリン異常高値を示した糖尿病の1例 —インスリン抗体によるインスリン感受性の影響—

斉藤一郎, 大村昌夫, 西川哲男
(横浜労災)

バセドウ病を伴う, インスリン(以下 Ins.) 抗体陽性の61歳女性の NIDDM 患者にて, 正常血糖クランプにおけるM値と赤血球膜 Ins. 受容体活性の低下を認めた。従って, 本例では Ins. 抗体の存在により全身組織での Ins. 感受性の低下が生じ, バセドウ病の存在が本症例の病態を修飾しているものと考えられた。